

要求いっぱい 会員大募集!

<1面から>

へ札幌白石支部大空班へ 卒寿を迎えた2人が新婦人の魅力を語ります。 守内みよさん(1面写真 右)は、業者団体の活動をしてきたとき新婦人の女性の地位向上の活動に共感して入会しました。 「いまでは新婦人しんぶんを読むしかできないけ

ど、しんぶんを通じて多くの女性とつながれる。しんぶんを読んで政治のことなど話せる新婦人って、いいわよね」と。もう一人の原田悦子さん(1面写真左)は「ケアハウスに入所してからも新婦人の仲間と電話したり、絵手紙や班会に行っておしやべりできて楽しい。だから新婦人をやめたくないわ。何でもおしゃべりできる新婦人の仲間は最高の宝もの」と話します。

「卒寿を祝う会」ではお花を飾り、お祝いの鉢植えをプレゼント、ランチに、みんなで歌おうと盛りだくさんの内容でした。参加者から「あせらず、あきらめず、元気に活動してほしい」「楽しかったわ」と感想も。 班ニュースを見て参加した80代の読者が「平和を守るためにがんばっている新婦人を応援したい」と入会し、みんな大喜びです。

声をあげて 麻雀卓が新しく配置された!

埼玉 深谷支部

2つの公民館に麻雀卓が3台ふえました。

深谷支部では健康麻雀小組が大人気で、入門コースなど4小组が増えていきます。「はたらふれあ

い館はその会場でした。3月議会で突然、深谷市コミュニティセンター「くれよんかん」と世代間交流センター「はたらふれあい館」、仙元山公

園遊園地「わんぱくランド」を来年廃止する条例が提出されました。少子高齢化、人口減少に伴う公共施設の適正配置計画と

子どもが安心して遊べ、地域の災害拠点でもある施設。すぐに他団体と「存続を求める」署名を集め、「慎重な議論と再検討を求める請願」を出しました。しかし請願は否決され、6月議会で廃止が決定。施設は公民館のみになってしまいました。



声をあげなければ私たちの思いは伝わらない!と行動

7月、市長と公民館の運営委任先の地域振興財団に「公民館に麻雀卓等を備えて」と要望書を提出。8月28日の説明会で、「今ある3台の他に3台を新規購入し、2つの公民館に3台ずつ配置する」とうれしい回答を得ることができました。

しんぶんタイムの おしゃべりが楽しい

宮崎・都城北諸支部つじ班絵手紙小組



お茶のみながら しんぶんタイム

絵手紙小組は、毎回新婦人しんぶんタイムをとっています。しんぶんを読んでおしゃべりすると、いろいろな関心があるかわかり、会員同士の絆が深まります。お米の問題や排外主義などは関心が高

く、情勢を深め合うことができ、署名の協力もお願いしやすくなりました。 しんぶんタイムは時々でしたが、今年からお茶の時間を利用したおしゃべりが楽しく、タイムが定着。パソコン詐欺の記事(9月13日号)では、「スマホでもいろんな広告が出て困るよね」ともありありがとうございました。「班と会員のみなさんへ」を読

んで、「今年は大大会があるのね」「増やせる人いないかな」など相談しています。

全国につながる共同とネットワーク 新婦人は女性運動の要

弁護士、新婦人中央委員 太田伊早子



分断の流れに抗う

新婦人の最大の魅力は、女性たちが世代を超えてつながり合い、声をあげられる場を持っていることです。全国に仲間がいて、日常的な活動を通じて信頼関係を築いているからこそ、「今こそ立ち上がらなければ」という時に即座に行動できるのです。 7月に全国250カ所でおこなわれた参政党代表の

発言への緊急抗議アクションはその強みを最大限に発揮しました。その背景には、女性の権利獲得に一貫してとりくんできた会の歴史と、日常の活動があります。小さなつながりが土台となり、大きな社会問題に直面した時に「私たちが声をあげなくては」と自然に結集できるのです。さらに、女性を分断しようとする流れに抗うという誇りは、世代を超えて受け継がれています。 新婦人の役割は、差別や排外主義を可視化し「おかしい」と示すだけでなく、軍拡や新自由主義による格差拡大に抗して、核廃絶と福祉優先を掲げ、誰もが安心して暮らせる社会を実現する。そのビジョンを明確に示せるのが新婦人の魅力であり、役割でもあります。 私たちでよい社会を作っていきますよ。(第194回中央委員会での発言より)

女性ニュース

2025.10.4

議員はデマやめよ

9月25日、「国会議員はデマ・差別を止め、人権と憲法を守る義務を果たしてください」のネット署名4万2586人分を各政党に提出し、記者会見した。太田啓子弁護士ら各界12人がよびかけたもの。議員や行政は人権と尊厳を守るのが義務。沖縄・那覇市議会では参政党議員の性的少数者差別発言に幅広い市民の批判が高まり、新婦人も抗議した。

戦争法10年、各地で

安保法制(戦争法)強行から10年の19日、日米一体の軍事化中止、戦争法廃止を求め、各地で行動がとられました。違憲の戦争法後、軍事費が急増、各地で軍事訓練・施設建設、港湾の軍事利用など「戦争する国家

づくり」が急速にすすめられている。世界も戦火拡大の歴史の岐路にあり、政治の右傾化をくい止め、憲法9条を生かす日本をめざす新しい共同への決意と努力が広がっている。

75歳以上の医療費増

10月から75歳以上の約310万人の外來医療費の窓口負担が上がる。原則1割負担だが、2022年に一定の所得者2割負担が追加され、配慮措置が終了するため。単身者は年金などの年収計200万円以上などが対象。

下水道陥没の恐れ

41都道府県の計300ヶ所の下水道管が腐食や損傷で道路陥没の恐れがあると17日、国交省が発表した。1月の埼玉県八潮市での陥没事故を受け、各自治体が調査。耐用年数50年

超の下水道管は2023年度で7%、33年度20%、43年度42%と急増。自治体任せでなく、国の対策が必須。

日本原水協70年

19日、原水爆禁止日本協議会(日本原水協)の創立70年記念レセプションが都内で開かれ、代表理事の米山淳子新婦人会長らが挨拶した。

性の多様化、中高生は

中高生のジェンダー意識ネット調査(ソニー生命、1000人、25年6月)で「男子の化粧」「女子のスラックス制服」に「違和感はない」と答えた中高生が7割を超え、同性同士の交際も6割だった。性の多様化への認識はすすむが、「体と心の性が異なることに悩む」中学生9.0%、高校生11.6%、「ジェンダーギャップなど

生きづらい」が中学生16.0%、高校生20.9%と苦悩する現実がある。

国連が女性の権利で

22日、国連総会は1995年の第4回世界女性会議(北京会議)30年を記念してハイレベル会合を開いた。事務総長はミソジニー(女性嫌悪)など揺り戻しを指摘。女性の意思決定参加は「贈り物でなく権利だ」と、さらなるとりくみを強調した。

パレスチナ国家承認

「ガザ虐殺やめよ」と世界中でイスラエルへの抗議が沸き起こるなか、創設80年の国連総会では、パレスチナの国家承認が相次ぎ、加盟193カ国中160カ国、8割超に。石破首相は承認を見送る演説を行い、アメリカ追従の恥ずべき姿勢を露呈した。